

英語語法文法学会第17回大会プログラム

(会費 4,000 円 当日会費 1,500 円 予稿集代 500 円)

日時：2009年10月24日(土) <昼食は、大学内生協も営業していますが、駅周辺での購入をお勧めします>

開催地：龍谷大学(大宮学舎) 【重文の建造物が多く、構内は全面禁煙です】

住所：〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1 (Tel. 075-343-3311)

<http://www.ryukoku.ac.jp>

(JR「京都」駅から市バス約5分、あるいは、阪急京都線「大宮」駅から市バス約5分。

徒歩の場合、JR「京都」駅「(烏丸)中央口」から約12分)

開催校委員：五十嵐海理

ワークショップ(南覺(なんごう)204講義室) ● 研究発表(南覺203・204講義室) ● 総会(清和館3階ホール) ● シンポジウム(清和館3階ホール) ● 会員休憩室(南覺202講義室) ● 司会者控え室(南覺106演習室) ● 関係者(ワークショップ・研究発表・シンポジウム発表者)控え室(南覺107演習室) ● 書籍展示(南覺202講義室) ● 運営委員会室・大会本部(清和館3階会議室)

受付：10時30分より 南覺(なんごう) 2階ホール

ワークショップ(南覺2階 204講義室) 10.45 - 11.45

1. 「He built a house 型表現はなぜ好んで使われるのか」
2. 「慣用的表現に含まれる it の指示対象をめぐって」
3. 「Car と run の共起について—日本人大学生のエラーをめぐって—」
4. 「Stronger than usual acid は可能か」

司会 林 龍次郎(聖心女子大学)
金子輝美(愛知淑徳大学非常勤)
中村 聡(跡見学園女子大学)
藤本和子(創価大学)
廣江 顕(尚綱大学)

受付：12時30分より 南覺 2階ホール

研究発表 13.00 - 14.45

第1室(南覺2階 203講義室)

1. 「Will / Shall be -ing 構文の「特別用法」に関する一考察」
2. 「未来表現 be about to の用法」
3. 「「客観性」と補文標識 that の出沒—確信性を表す sure, confident, certain の比較—」

司会 松村瑞子(九州大学)
佐藤健児(日本大学大学院)
衛藤圭一(京都外国語大学非常勤)
土屋知洋(国立岐阜工業高等専門学校)

第2室(南覺2階 204講義室)

1. 「結果構文における字義的解釈と誇張解釈について」
2. 「動作表現構文における他動性と意味的特性」
3. 「動詞 pour はなぜ場所格交代できないのか」

司会 澤田茂保(金沢大学)
工藤 俊(筑波大学大学院)
小葉哲哉(筑波大学大学院)
吉川裕介(龍谷大学非常勤)

総会(清和館3階ホール) 15.00 - 15.20

開会の辞 会長 安井 泉(筑波大学)
開催校代表挨拶 福本幸之(龍谷大学)
学会賞選考報告 会長 安井 泉(筑波大学)
事務局報告 事務局長 吉良文孝(日本大学)

シンポジウム(清和館3階ホール) 15.35 - 17.45

テーマ 「大規模コーパスを英語研究に有効利用するための留意点について」

1. 「辞書編集におけるコーパス活用」
2. 「周辺部を記述するための大規模コーパスの利用：その方法と留意点」
3. 「コンコーダンス・ラインが語ること、語らないこと：英語評価表現の場合」

司会 大室剛志(名古屋大学)
井上永幸(徳島大学)
滝沢直宏(名古屋大学)
深谷輝彦(椋山女学園大学)

閉会の辞 五十嵐海理(龍谷大学)

懇親会 18.00 - 19.30 会場：清和館1階食堂 (懇親会費：一般4,000円 学生2,000円)

連絡先：英語語法文法学会

(〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部英文学科 吉良文孝研究室内)

Tel. 03-5317-9709 Fax 03-5317-9336 email: kira@chs.nihon-u.ac.jp